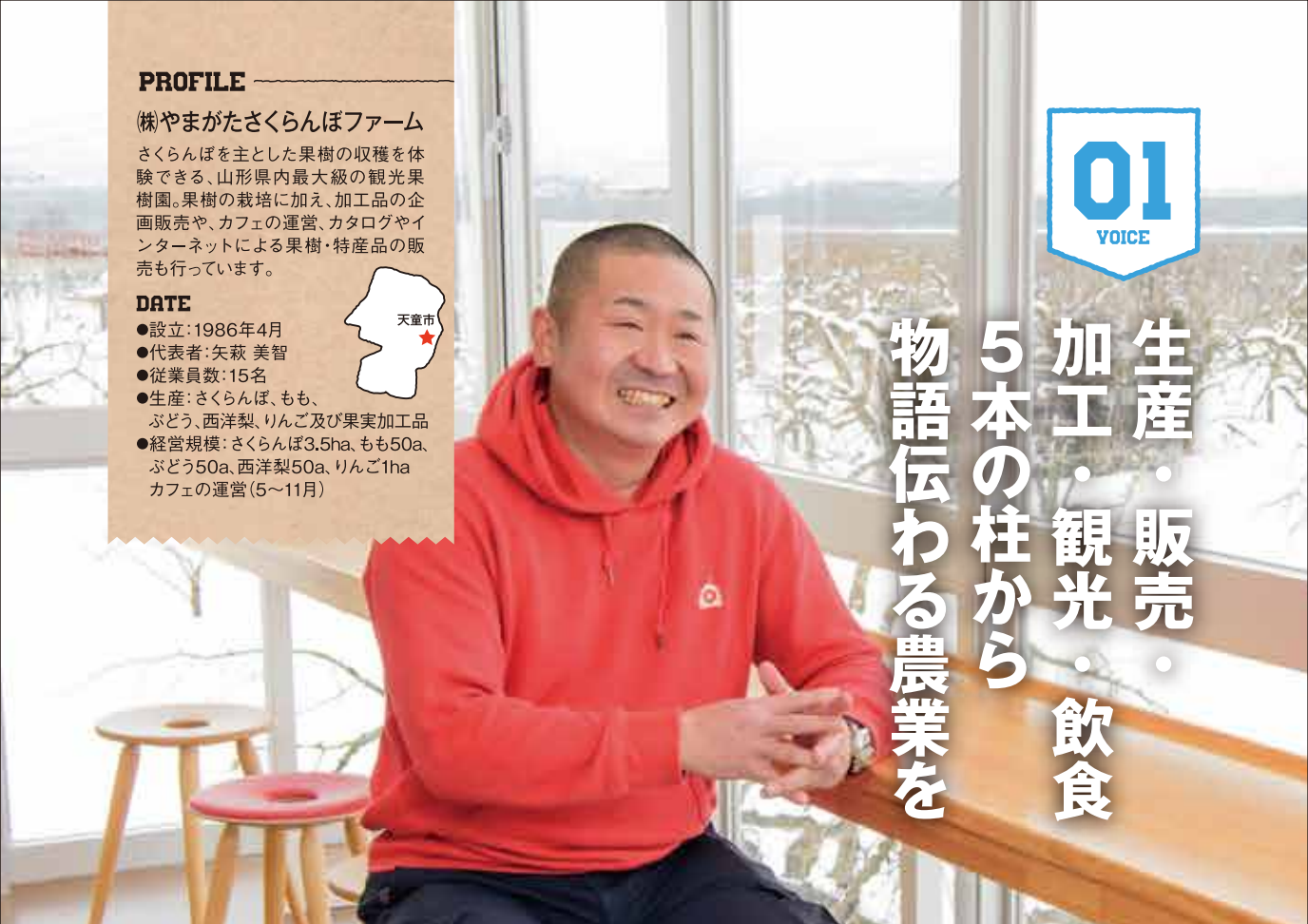


# 生産・販売・加工・観光・飲食 5本の柱から 物語伝わる農業を



## PROFILE

### (株)やまがたさくらんぼファーム

さくらんぼを主とした果樹の収穫を体験できる、山形県内最大級の観光果樹園。果樹の栽培に加え、加工品の企画販売や、カフェの運営、カタログやインターネットによる果樹・特産品の販売も行っています。

### DATE

- 設立:1986年4月
- 代表者:矢萩 美智
- 従業員数:15名
- 生産:さくらんぼ、もも、ぶどう、西洋梨、りんご及び果実加工品
- 経営規模:さくらんぼ3.5ha、もも50a、ぶどう50a、西洋梨50a、りんご1ha カフェの運営(5~11月)



## 山形×農業

山形の農業と一言で言っても、海沿いの平野部から内陸、山間地、気候風土や歴史が異なり、それぞれの特徴が活かされた野菜や果樹栽培、穀物の栽培、畜産が行われています。ごこのごの食材もとてもおいしく、光るものばかり。山形を誇るその味こそが、生産者が持つ技術と、日々の努力の成果なのだと感じます。山形はたくさんさんの技術者がいる地域。「何を育てたいのか」「どんな経営をしていきたいのか」強い想いがあり、挑戦し続ける姿勢があるならば、成功の道が開ける場所であると思います。



## 成功の秘訣とは

### 1 お試し期間を設ける

6次加工には設備投資やたび重なる試作など、たくさんさんのコストがかかります。商品が完成したから販売ではなく、設備のレンタルや委託加工から徐々に進めたり、試験的に販売を始めお客様への反応や動きを確認して更に修正を加えていくと確実な成果が得られます。

### 2 山形＝さくらんぼ

特産物として山形のさくらんぼは多くの方に知られており、県でも力を入れてPRしてくれています。そこに合わせてPRすれば、広報力は倍！

### 3 それぞれのプロと連携を

ジュースやお酒、大福、焼肉のタレなど、加工は地元のプロフェッショナルにお力をお借りし、作っています。また、果樹園のプラン内容には地元の温泉を楽しめるものも。よりお客様に喜んでほしい、地域の絆も深まります。



1階のお土産コーナーには、山形県内からセレクトした商品を揃えている。



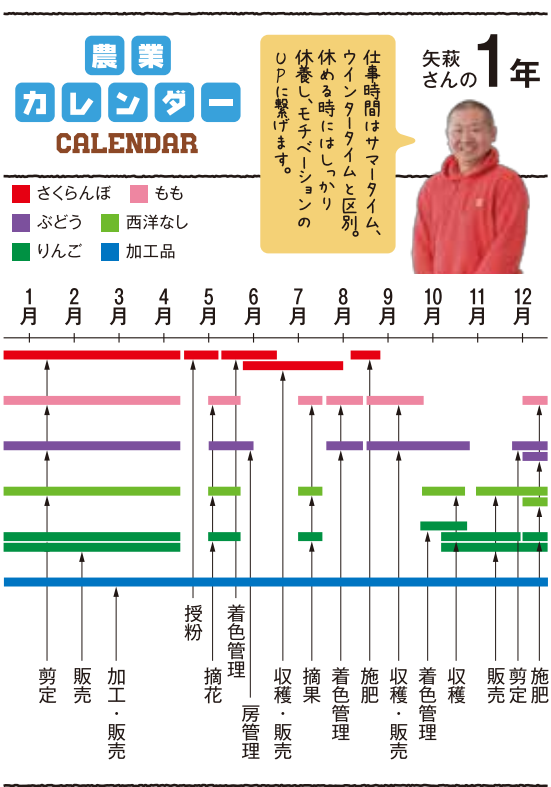
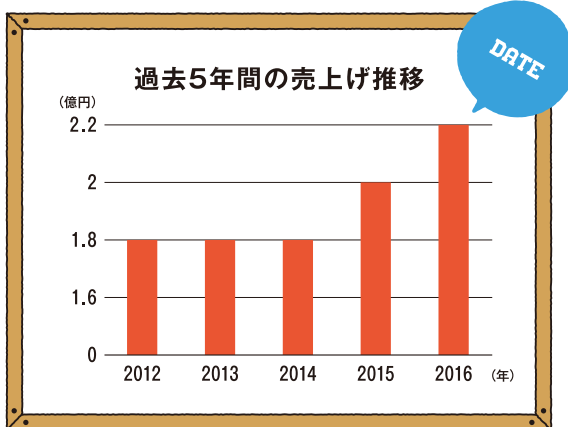
「もっと楽しんでもらいたい」  
想いから

ある冬の日のこと。事務所にかけられた電話の内容は「今でもさくらんぼ狩りはできますか?」というものでした。「県外の方はさくらんぼの旬を知らなかったのですね。そこに需要を感じました」と矢萩美智代表。年間3万人の観光客が訪れる当社の目玉は何と言ってもさくらんぼ。一般的にさくらんぼ狩りのシーズンは露地物で6月中旬から7月上旬頃の20日間。お客様にもっと楽しんでもらいたい、温室や遮光シートで栽培方法を工夫したり、晩生品種の栽培を進めるなどし、5月20日頃から7月20日頃までと栽培・体験期間をぐっと伸ばしました。「温室は管理や費用がかかると思われがちですが、晩霜や天候不良にも対応でき、ミツバチも留まって働いてくれます。露地よりも安定した収穫が見込めますよ」。また、お客様の需要から、りんご栽培からも栽培への移行も。「りんごは栽培期間が長く、台風などの自然災害リスクも。晩秋の収穫期には寒さからお客様の入りが少なかったりするのです。その点8月に収穫するももは、夏休みと重なり、ファミリー層の集客が見込めます」。それぞれの果樹の特徴から稀少価値を見出し差別化を図りました。

社員一丸となって、  
お客様、地域を笑顔に。

東日本大震災発生後はお客様が訪れず、そのまま倒産してしまうのではないかと心配されたこともあったそうです。しかし社員を解雇するのではなく、資材や作業、徹底した社内での合理化を実施し危機を免れました。また社員には、会社は売り上げや利益の向上を目指すばかりではなく、自分たち自身、そして地域の幸せを得るための仕事場である、という意識づけをしているという矢萩代表。「では私たちの仕事で、お客様に喜んでもらうには何をしたら良いのか?」それぞれが考え、共に実行していくことでチーム力を高めています。

これまでやむをえず破棄していた果樹を有効活用したいと、ソフトクリームの加工試作から、プレハブでの販売を経て、2015年6月に農園に隣接したカフェをオープンしました。2階の大きな窓からは、長年お客様に見せたいと思いつけてきた、月山と広がる果樹畑が望めます。さくらんぼを使うたりキュールや、大福、焼肉のタレなどの加工品も次々に完成し、人気上昇中です。「さくらんぼのことならやまがたさくらんぼファームだね」そんな企業になりたいですね。



**SUPPORT**

成長のチャンス

・元気な6次産業化応援プロジェクト事業  
・経営体強化プロジェクト  
・農の雇用人材育成事業

農業関連の公共施設や説明会にこまめに参加することで、現在の農業の動向が見えるほか、会社が成長するための様々な援助を受ける機会が増えます。